

船田亨（ふねだ じょう） 法哲學者、法學博士。明治二十一年一月十三日栃木
縣生れ、昭和四十五年三月十四日歿（八八—一九七〇）。大正十年東京帝
國人學法學部卒。京城帝大教授。昭和二十年『羅馬法』全五卷（昭和
十八年二月五日—十九年十月）二十日岩波書店）によつて帝國學士院實徳
賜賞を受賞。戦後衆議院議員、作新學院院長歴任。

著譯書『ロカントの法律哲學』（大正十二年六月十八日日本大學、清
水書店（復讐））、メレジエコウフスキイ作『符教者シウリアノ』（譯、
大正十二年十一月十二日春陽堂『春陽堂譯述叢書』）、イマヌエル・
カント著『法律哲學』（恒藤恭共譯、昭和八年十月二十日岩波書店
「カント著作集」）、『羅馬元有政の起源と本質』（昭和十一年十
月五日岩波書店「京城帝國大學法學會叢刊」）、『フアシズモ研究』
（合著・石田母編、昭和十七年十月二十日イタリヤの友の會）、ガイ
ウス著『法學提要』（譯、昭和十八年七月二十日日本評論社「法學叢
書」）等。

